

令和2年度 下野市行政評価市民評価 ヒアリング資料

事務事業名	公共施設公民連携推進事業		所管部課	総合政策部	総合政策課	
事業目的	地域の賑わい創出に向けた公民連携によるまちづくりを推進する地域人材を育成・確保するため、若者・子育て世代の地域に対する愛着の醸成や居心地の良さの向上を図る「サードプレイス」づくりに取り組む。					
事業概要	街全体をキャンパスに見立て、街の良さを取り入れながら、先生、生徒といった役割に固定しないオープンな交流・学び合いの場を提供することにより、様々な人の交流を促進し、地域の賑わいを演出する。 ○シモツケ大学 ワークショップや社会実験の実施等を通して、「ふるさと」を支援する地域づくり団体の設立を目指す。 ※R2は石橋駅西口でモデル実施。R3以降は市内全域に取組を拡大					
総合計画での位置付け	6 市民が主役の市民と行政が協働するまちづくり	重点事業区分	暮らし	類型区分	I (積極的推進)	
事業区分	新規・継続 : 継続	事業の種類	ソフト事業	市裁量の有無	裁量あり	
根拠法令等	下野市都市再構築プラン(H30.3)、下野市石橋駅周辺公共用地利活用基本計画(H31.3)、石橋駅西口地区都市再生整備計画(R2.4)					
補助団体	—					
年度別	事業計画	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	事業費			5,414千円	7,000千円	6,500千円
事業内容	対象年度(令和3)	委託料 7,000千円 【内訳】 5,000千円 ワークショップ(シモツケ大学企画運営) 1,500千円 公共空間利活用社会実験(石橋駅・自治医大駅・小金井駅周辺) 500千円 シンポジウム開催(テーマ:公共空間利活用)				
	財源	国県支出金	地方債・その他	一般財源		
その他(過年度実績・特筆すべき点等)	>R2実施内容の詳細(予定含) ○シモツケ大学プログラム 10~3月に、5講座以上実施予定 10/23 第1回「石橋駅前の歴史を学ぼう! 第1回「商店街物語」」20名参加 11/3 第2回「居心地よいマイプレイスを探せ! 石橋でチェアリングしよう」(予定) ○公共空間を活用した社会実験 10/1~11/30 「しもつけしき石橋縁側」グリム通り4店舗(飲食店)でテラス営業開始 ○公式HP、SNSによる情報発信 シモツケ大学HP開設のほか、SNS(FB、TL、インスタグラム)で開催案内や実績を発信 >今後の展開 地域おこし協力隊が中心となり、関係人口創出、市民活動支援を含めた地域づくりを担う中間支援組織の設立を目指すとともに、活動エリアを市内全域に拡大する。 >他事業との連携 ○石橋多目的広場整備事業、○複合施設整備事業(R4.12供用開始予定) ワークショップ実施により、コミュニティ形成を促進し、施設利用ニーズと利用者創出を図る ○高校生地域定着促進事業(県モデル事業)との連動した講座の実施 高校生が作成する街案内マップを活用した高校生案内街歩きを実施予定(3月頃) ○地域おこし協力隊事業 R2.7着任した隊員が、地域の魅力ある人材を発掘するほか、大学企画運営を担当。 ○宇都宮大学地域デザイン科学部「地域プロジェクト演習」(5~11月) 大学3年生5名が「石橋まちなかりノベーション」をテーマに活動中(10月までオンラインのみ)					

事業推進方針判断に際しての3つの視点					
必要性	A	全て	要件(3項目) <input checked="" type="checkbox"/> 社会経済情勢の変化や市民ニーズ等に適合する。 <input checked="" type="checkbox"/> 第二次下野市総合計画の施策体系と事業目的に整合性がある。 市民・団体・議会等から要望や要請がある。		
	B	1以上	市裁量がない事業(⇒A評価とする)		
	C	なし	人口減少や高齢化により地域が衰退する中、若者や子育て世代同士又は世代を超えた新しいコミュニティの形成を促進し、まちづくり人材を育成するため、公民連携の多様な「場」を提供する必要がある。「シモツケ大学」は、多様な人同士のコミュニケーションの「きっかけ」となるとともに、公共空間、低未利用地を含めた潜在的な地域資源に、新しい付加価値を見出す実験場でもある。近年、新型コロナウイルス感染症の影響で、商業活動や文化活動が制限される中、新しい生活様式に対応するため、道路、公園など屋外の公共空間を活用することが重要となっている。市民が主役のまちづくりを一層推進するため、市民と協働する場を拡充していくことが必要である。		
有効性	A	全て	要件(3項目) <input checked="" type="checkbox"/> 市民サービスの維持・向上に寄与する。 <input checked="" type="checkbox"/> 適切な評価指標の設定があり、達成に向けたプラン・動きがある。 <input checked="" type="checkbox"/> 地方創生(人口・関係人口増)やSDGs、国土強靱化に寄与		
	B	1以上	市裁量がない事業(⇒A評価とする)		
	C	なし	本事業は、石橋駅西口地区都市再生整備計画(R2~6)の事業として位置付けられており、当該計画において、石橋地区に整備予定の多目的広場や複合公共施設などへの地域の周遊性向上と関係人口拡大を図るために、R6に達成すべき定量的な指標を設定している。 ・イベント開催数(回/年) H30 6回 → R6 9回(3増) ・グリム通り歩行者数(人/日) R1 954人 → R6 1,050人(96増) ・JR石橋駅乗降客数(人/日) R1 10,008人 → R6 10,500人(492増)		
効率性	A	3以上	ソフト事業(要件:6項目)		ハード事業(要件:3項目)
	B	1以上	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の質を維持しつつ、事業費の削減や取組方法を見直す <input checked="" type="checkbox"/> 受益機会・費用負担割合等が公平公正である。 <input checked="" type="checkbox"/> 他課との連携等により、相乗効果を図る。 <input checked="" type="checkbox"/> 市民団体や近隣自治体等と協働や連携 指定管理者制度導入等、民間活力を活用する。		補助金等の積極的な活用で最大の成果となる方法を選択している。 将来の活用・活性化等のビジョンが明確である。 マネジメントの観点から維持費等について十分検討されている。
	C	なし	管理業務等において、現在の取組手法から、さらに効率性を図ることは困難である。		
R2~6まで都市構造再編集集中支援事業補助金を活用予定(国庫補助1/2限度)。公募型プロポ選定した委託事業者(NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク)がもつ、若者人材育成のノウハウや人脈、情報発信力を活用。また、地元新聞販売店発行の情報誌に本事業の紹介記事が掲載予定。以上のことにより、本事業へ積極的に参画・参加する住民や企業等との連携の輪が広がっており、効率的な事業を実施している。					

総合評価	
○	継続実施
	見直し実施
	廃止